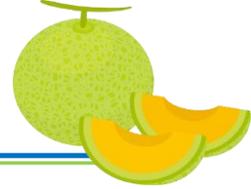




サンビोटリック農業で大豊作！

スイカ・メロン栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
2～3月	育苗期	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5～10%	混和	播種または鉢上げする場合の培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和し、2週間程度おくと、良くなじみます。
		菌カアップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌カアップは500倍希釈と薄めに行います。コーソゴールドは徒長抑制、花芽分化促進となります。コーソゴールドは葉面散布もお勧めですので、防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。
3月	本圃準備 (元肥)	完熟堆肥 有機百倍 鈴成 菌カアップ	1～2トン 3～5袋 5～10袋 5リットル(適宜希釈)	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pH、石灰、苦土などを施用しておきます。特に味の良い果実を作るため、苦土は不足しないように硫酸苦土で設計します。うどん粉病、つる枯れ病など茎葉病害に弱い圃場では、ケイ酸加里もお勧めです。その後、1～2トン程度バーク堆肥や牛糞堆肥などの堆肥を施用します。(五穀堆肥の場合は50袋)堆肥を散布し、菌カアップを散布したら土壌混和して1か月程度養生します。つる割れ病や半身萎凋病、疫病などの連作病害発生リスクの高い圃場では、菌カアップは10リットル使用します。定植の1～2週間前に、元肥を施用します。元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。地力に応じて、元肥は抑え気味とし、つるボケを防止します。
3～4月	定植期～ 初期生育	菌カアップ コーソゴールド 純正木酢液	5リットル 2kg 2リットル	5～7日おきに 灌水(4回以上)	定植後は活着促進のため、株元灌水で菌カアップ100倍希釈(200～300cc/株)を1日おきに施用する。活着後は、初期生育のため左の通り。灌水を控える場合は、省略する。農薬散布時には、コーソゴールド500倍、純正木酢液1000倍、海王5000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良い。
4～5月	受粉 着果促進	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布	低温や日照不足時の着花促進には、コーソゴールドと海王を葉面散布します。受粉予定日の2～3日前に行くと、効果的です。
5～6月	肥大期	糖カアップ コーソゴールド	3～5kg 2～3kg	7日おきに 灌水	肥大性の良い品種では、糖カアップの灌水は不要。肥大しにくく、着果数の多い品種や栽培体系では、着果後から樹勢を落とさない管理が重要。糖カアップは収量アップ、なり疲れ防止。灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整する。特に乾燥したときは、灌水すると良い。コーソゴールドは、灌水、または葉面散布すると食味・品質向上、病害予防になるため、おすすめ。
6～7月	2番果	特濃糖カアップ、ま たは糖カアップ コーソゴールド 海王	5kg 5kg 100g(または5000倍希釈)	4日おきに 灌水(2～3回)	1番果収穫後、殺菌剤をしっかりと散布し、枯れた葉や踏みつけたツルは切除する。葉の健康を取り戻すことが最重要。灌水チューブを敷設していない場合は、動噴の先端ノズルを外して、圃場全体に左記液肥の希釈液を飛ばして全面灌水する。
土壌 病害時 (随時)	フザリウム、疫病、 べと病、センチュウなど	菌カアップ 純正木酢液	10リットル 500倍希釈	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応する。適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのち、菌カアップ・純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。ネコブセンチュウの場合は、糖カアップ5リットルを混用する。3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続する。
茎葉 病害時 (随時)	病虫害の 対応(うどん粉、つる 枯れ病等)	本気Ca(マジカル) 本格にがり	1000倍希釈 500倍希釈	3日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。マジカルは、キレートカルシウムが浸透し細胞壁を強化します。本格にがりは繊維質を強化し、耐病性を高めます。うどんこ病の場合は、ケイ酸加里溶液を手作りして散布する方法もあります。純正木酢液5倍液に、ケイ酸カリ(粉末)を木酢液の1/10量混ぜ、一晚浸漬したのち、その上澄み液を100倍希釈にして使用すると良いです。 (例)水4L+木酢1L+ケイカリ100g→上澄み液を100倍希釈

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。